

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
I 学校運営	1	学校の教育理念・目的を定め、それを実現するための組織目標を策定しているか。	①組織目標は、教育理念・目標を踏まえて策定し、法人目標との整合性がある ②組織目標は、学校の特徴や前年度評価を生かして策定している ③中・長期の組織目標も策定している ④組織目標を職員が理解している	3	・組織目標については、BSC（バランスト・スコアカード）により目標管理が行われており、定期的な見直し・確認によって整合性が保たれている。教育委員会などの会議を通じて、目標についての説明や報告がなされ、全体への周知がされている。 ・課題としては、BSCに対する理解の差があるため、理解の促進が必要である。
	2	コンプライアンスを重視した学校運営がなされているか。	①法令や倫理を遵守し、適切な学校運営がなされている ②個人情報の保護について十分な対策を講じている ③外部委員を含めて学校運営評価を実施し、結果を公表している ④学生や職員等の人権に充分配慮している	3	・個人情報保護に関する対策を実施し、個人情報保護については配慮されている。人権に関しては、人権委員も選出されており、必要時相談可能な体制がある。 ・教職員の入れ替わりが多くあるため、人権への配慮が継続できるように、定期的なハラスメント・コミュニケーション研修の実施が必要である。
	3	組織全体でチーム力を発揮した取組を行っているか。	①運営組織や意思決定の仕組みが明確化され、有効に機能している ②組織の課題を職員が共有し、解決に向けて協力して対応する仕組みがある ③組織内でタイムリーな情報共有を図っている ④担当間の連携・調整、コミュニケーションを円滑に行っている	3	・昨年度評価がやや低めの項目であったが、BSC（バランスト・スコアカード）の目標に挙げ、組織的に取り組むことで、改善を図ることができた。情報共有ツールを作成したり、領域間での意見交換の機会を創出し、解決に向け協力できる環境づくりを行った。 ・今後はさらに、情報共有ツールの整備や良好な連携のための仕組みの強化を行っていく。
II 教育課程・教育活動	4	ディプロマポリシーを明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか	①看護師として身に着けておくべき資質を、知識・技術・態度の側面から明文化されている ②ディプロマポリシーを学生に説明する機会を設けている ③ディプロマポリシーの到達状況を教員間で確認する機会がある ④ディプロマポリシーに照らし、卒業時の到達度を評価している	3	・学生便覧に身に着けておくべき資質が記載されている。 ・年度初めのガイダンスにて、学年ごとにディプロマポリシーの説明がされ、年度末には評価を行っている。 ・今年度は、ワークショップでの意見をかため、学年ごとのアウトカムの改正を行ったため、次年度はそれを有効に活用できるような働きかけが重要となる
	5	教育内容は教育理念・教育目標との一貫性があり、時代の要請に定める内容に	①教員全員で教育課程を検討する場を設けている ②時代の要請に応じて、必要時に修正している ③学校の独自性が盛り込まれている ④教育課程の評価を行い、結果を次年度に反映させている	3	・ワークショップのテーマとして、学校法人の100周年に向けて、本校のミッション・ビジョンについて教員全員で話し合いを行った。次世代育成に向けて、臨場感の強い高機能シミュレーターやSP(模擬患者)の活用などの教育内容が多く盛り込まれた。 ・教員課程の評価は例年行われており、次年度に反映されている。
	6	体系的なカリキュラム運営が行われているか	①授業計画(シラバス)を作成し、公表している ②効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している ③授業評価アンケートを実施し、講義・実習指導等の改善に役立てている ④授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善している	4	・授業評価アンケートを通じて学生の声を丁寧に拾い上げ、結果を授業改善に反映させている。また、時間割の調整も柔軟に行われ、学生の学修を円滑に進められる体制を整えている。 ・シラバスはホームページに公開されており、情報提供の透明性が確保されている。このような取り組みによって教育の質向上に努めている
	7	評価について公平性・妥当性が保たれているか	①評価基準を公表している ②評価方法及び評価結果を学生に説明・明示している ③評価の妥当性について検討する場がある ④学生の納得性を高める努力をしている	4	・全ての科目において、試験後にフィードバックの時間を設け、学生が自身の学びを振り返り、次につながられるような工夫を継続している。 ・評価基準は、シラバスに明記され、授業のオリエンテーションや実習要項を通じて説明し、学生に納得感のある評価をおこなっている。評価後のフィードバックの機会も含めて、教育の質の向上に努めている
	8	実習時の安全体制が整っているか。	①医療安全教育を体系的に実施している ②実習における感染予防対策、職業感染予防対策を実施している ③実習施設と協議し、安全な実習環境の整備に努めている ④実習を振り返りながら安全意識の向上を図っている	4	・実習前には安全体制に関する指導を実施しており、各実習領域でも工夫を凝らした取り組みを実施している。 ・学校法人および実習病院の方針に基づき、感染予防対策も講じている。さらに、保健管理センターとの連携も良好であり、学生が安心して実習に臨める体制が整備されている。

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
Ⅲ 学習成果	9	学生に単位取得にむけた支援を実施しているか	①学生の単位取得上、困難となる要因を分析している	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時間の要件を満たせるよう、学生への指導体制はより強化され、成績不振者への支援も個別に丁寧に行われている。補修テスト後のフィードバックや、実習不合格時の個別対応など、支援方法は各領域で工夫され、進級を支える体制が整えられている。</li> <li>・一方で、手厚い支援により学生の危機感が薄れている可能性の指摘もあり、支援しつつも学生が自立して学修に臨める体制を構築していく必要がある。</li> </ul>
			②学生が再試験・再実習となった理由を自己分析するように指導している		
			③学生の自己分析結果に基づき対応策を学生と検討し、指導している		
④成績不振者を対象として学習支援や学習会等を実施している					
10	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか	①1年次から3年間を通して計画的に国家試験対策に取り組んでいる	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験対策委員会が中心となり、学年ごとの進捗や状況に応じた対策を実施している。特に1年次から模擬試験を計画的に導入し、早期から国家試験への意識づけができる取り組みを行っている。常に、全国平均を上回る合格率を維持しており、これらの取り組みの成果が表れていると考えられる。</li> <li>・今後は合格率100%の継続に向けて、不合格の原因分析や改善策の検討が重要である。</li> </ul>	
		②国試の合格率が全国平均を上回っている			
		③国試の合格率が100%である			
		④学校独自の工夫をしている			
11	退学率の低減を図っているか	①再試験・再実習を持つ学生への継続的な支援を行っている。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な支援が必要な学生に対し、クラス担任が定期的な個別面接を行い状況把握に努めている。改善が難しい場合は、保護者と連携し三者面談を行うなど継続的な支援体制が整えられている。</li> <li>・退学者は全学生の0.3%に抑えられている。</li> </ul>	
		②定期的な個別面談で状況を把握し、適宜相談に応じている			
		③退学者の状況を把握・分析している			
		④退学者は全学生の3%以下である			
Ⅳ 入学・卒業対策／就職・進路支援	12	入学応募者確保に努めているか	①各高等学校等に出向き学校案内を行っている	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜入試を取入れ、受験生のニーズに対応した選抜方法を開始した。また、オープンキャンパスやパンフレットでは、本校の教育の特色や魅力が伝わるよう、内容やデザインに独自性を持たせる工夫をし、応募者確保に努めている。</li> <li>・今後18歳人口の減少により、受験生確保はさらに厳しくなるため、独自の教育プログラムや多様な募集方法の導入の検討が必要である。</li> </ul>
			②就職や国家試験合、進学状況を公表している		
			③学校説明会以外に個別の学校見学等に対応している		
			④学校説明会では、独自の工夫がある		
13	就職・進路指導に取り組んでいるか。	①就職・進学支援について、計画的に取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア支援については、大学と同等の充実した体制が整備されている。キャリア支援担当者を配置し、1年次より継続的な支援が行われており、学年に応じたセミナーの実施や個に応じたキャリアや就職の相談など、きめ細やかなサポート体制が整っている。</li> </ul>	
		②就職・進学支援について、教員とキャリア支援間で連携した支援を行っている			
		③就職希望者の就職率を高めるように努めている			
		④学生の特性を生かすように、個別の支援を行っている			
14	卒業生への支援を行っているか	①卒業生への就業継続への支援事業を行っている	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生に対するキャリア支援窓口の設置や、図書館利用などの支援体制が整っている。</li> </ul>	
		②卒業生も図書室を利用することが可能である			
		③既卒者、中途退職者に対し就職相談にのるシステムがある			
Ⅴ 学生生活への支援	15	健康管理面、経済面、精神的面からの学業継続支援体制が整っているか。	①奨学金、授業料減免など、経済的支援について情報を提供し相談に応じている	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の状況に応じた相談体制が整っており、体調やメンタル面に不安を抱える学生に対しては、保健管理センターとの連携によって適切に受診や相談を勧める対応がなされている。</li> <li>・また経済的支援では独自の奨学金制度の準備もあり、随時情報提供に努めている。</li> </ul>
			②カウンセラーの存在、役割を学生に周知している		
			③健康診断後の指導・相談体制がある。		
			④個々の学生の状況に応じた支援を行っている		
16	学生の自主的な活動を支援しているか	①いぶき祭の活動を支援する体制がある	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年教員や行事委員が連携し、いぶき祭などの行事において役割分担をしながら学生支援を行っている。サークル活動においても附属大学と連携し活動環境を整えている。</li> </ul>	
		②サークル活動など自主的な活動の場を設けることを支援している			
17	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	①学生の意見や要望を聞く場を設け、意見箱を設置している	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見箱の設置や、校長・副校長も交えた、懇談会を定期的に開催し、要望に関しては可能な限り対応している。</li> </ul>	
		②意見要望への回答を必要に応じて公開している			
		③意見や要望に基づいた改善を行っている			

大項目	番号	中項目	評価の視点 (1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切)	評価点	分析・対策
VI 財政、 施設設備の 管理	18	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている	①年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている	3	・計画的な予算計上と事業執行を行っている。今年度は、交換年度となった視聴覚設備は交換を行った。 ・経費削減に関しては、組織的な取り組みをさらに強化していく必要がある。
			②計画的に設備備品の充実などを行っている		
			③組織的に経費の節減対策を行っている		
	19	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。	①総合防災訓練等を年1回実施している	3	・防災訓練を実施し、災害時の備蓄品についても管理・更新が行われているほか、災害マニュアルが教職員に配布され、一定の体制は整備されている。 ・一方で、災害時の教職員の役割分担や対応行動の強化や再確認が早急に必要である。
			②防犯・交通安全対策を行っている		
			③危機管理マニュアルを作成し、随時見直している		
			④学生用の災害時の食糧・飲料水、簡易トイレや寝具を備蓄している		
	20	施設・設備及び教材が整い、安心、安全が確保されているか	①耐震基準をクリアしている	3	・施設・設備・教材は指定規則に則っており、計画的な点検・整備を行っている。 ・教材・備品に関しては、使用は可能だが、一部年度の古いものも混ざっており、定期的に今後交換していく必要がある。
			②指定規則に則った施設・設備・教材がある		
			③教材・設備等の安全性を確保するための工夫・改善を行っている		
			④教材・設備等の安心・安全のための、定期的な点検・整備を行っている。		
	21	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか	①学生のための福利厚生施設・設備がある	3	・実習室、講義室は必要時学生に開放され、図書室は実習後・放課後にも利用できるように開いている。 ・大学の施設である生協や食堂・多目的室なども利用できる環境がある。
②図書室は利用しやすく学生に十分活用されている					
③学生が自主的に看護技術練習をするための場と教材が整っている					
VII 教職員の 能力向上	22	教員は、看護教育力向上に努めているか	①看護教育力向上のために研鑽の取組を行っている(学会参加など)	3	・授業参観、授業公開、FD(ファカルティディベロップメント)などは毎年行われており、個人で学会にも参加し、教育力向上の活動を継続的に行っている。 ・研究活動については、今後計画敵に取り組んで行く必要がある。
			②授業参観・授業公開により能力向上を図っている		
			③臨床看護研修や研究活動に計画的に取り組んでいる		
	23	教員の能力向上に対する取組を支援する環境があるか。	①学校の抱えている課題を踏まえた研修を行っている	3	・教員研修委員会による教員研修の実施、他校との交流での有益な情報共有、学会参加者の教員への還元など、例年、質向上に務めた活動を行っている
②二水会を通して、情報共有できるしくみがある					
③教員の要望を踏まえた研修をおこなっている					
④学会、研修等に参加した成果を他の教員に還元している					
VIII 広報・ 地域活動	24	学校をPRするために積極的な広報活動をしているか。	①前年度の評価を踏まえた広報計画を年度初頭に策定している	3	・学生募集委員会が中心となり、昨年度の評価に基づく企画が提案され、実行されている。 ・ホームページは定期的に更新し、法人100周年に向けての本校のミッション・ビジョンを追加掲載し、本校の魅力を発信している。
			②ホームページを年6回程度更新している		
			③学校説明会参加者を増やすための工夫を図っている		
			④学校独自の広報活動に努めている		
	25	地域社会の一員として、貢献しているか	①地域のボランティア活動への参加を促している	3	・例年地域のお祭りに学校ロビーを開放しているが、お祭りにも教員や学生で参加し、地域活動へ貢献した。 ・近隣小学校の校外授業に、附属大学と協力して取り組んでおり、医療職の魅力を伝える活動を例年行っている。
②学校独自の地域社会活動に努めている					

評価の視点：1:不適切・2:やや不適切・3:ほぼ適切・4:適切



評価項目	R6(2024)年度 最終評価	R6(2023)年度 最終評価	R6(2022)年度 最終評価
I 学校運営	3.1	3.1	3.3
II 教育課程・活動	3.3	3.3	3.3
III 学習成果	3.1	3.2	3.1
IV 入学・卒業対策／ 就職・進路支援	3.6	3.5	3.3
V 学生生活への支援	3.5	3.5	2.9
VI 財政、施設設備の管理	3.2	3.3	2.8
VII 教職員の能力向上	3.0	3.1	2.3
VIII 広報・地域活動	3.0	2.8	2.9
平均	3.2	3.2	3.0

\*2022年度から評価項目を一部改訂

総括：

1. 学生への教科外サポートである、入学・卒業・就職・進路支援に関する項目はさらに高い評価が得られ、充実した支援が行われている結果と考えられる。
2. 学習成果と教職員能力の項目は、ほぼ横ばいであるが、昨年度、科目評価方法を大幅に変更したことで、最適な支援方法の構築中であり、次年度の成果につなげていく。
3. コロナ禍後、地域との交流も少しずつ回復しており、不適切評価が続いていた広報・地域活動において、適切評価側へ向上がみられた。